

大阪府立図書館の発展と鈴木馬左也  
- 明治大正時代における成立と発展の時期を中心に -

入月 葉紀

大阪府立図書館の成立と発展について、先行研究では住友家の貢献の重要性が指摘されてきた。明治 33 (1900) 年に大阪府知事の菊池侃二 (1850 - 1932) が立てた「大阪府教育十ヶ年計画」の中で図書館設立が提案され、このことを知った住友家の第 15 代当主住友友純 (1864 - 1926) が図書館建物一式ならびに図書基金として 5 万円を寄付したという経緯がある。また、住友友純は同館に対してたびたび図書の寄贈もおこない、さらに、大正 6 (1917) 年には、大阪府知事林市蔵 (1867 - 1952) に寄付願書を提出して大阪府立図書館の増築を実現させている。しかし、この時期の住友家の貢献については、住友友純とともに、第 3 代総理事を務めた鈴木馬左也 (1861 - 1922) の貢献も指摘できる。そこで本研究では、明治大正時代における大阪府立図書館の成立と発展の時期において、鈴木馬左也がおこなった同館への貢献と、その根底にあった主義・思想を明らかにすることを試みた。

主に使用した資料は『大阪府立図書館一覧』(明治 40 年、大正 3 年)と『大阪府立図書館年報』(明治 36 年から大正 11 年まで)、さらに『住友春翠』(芳泉会、1975 年)や『鈴木馬左也』(鈴木馬左也翁伝記編纂会、1961 年)といった伝記に掲載された当時の資料である。

鈴木馬左也は、文久元 (1861) 年に高鍋藩 (宮崎県) に生まれ、藩校明倫堂に学んだのち、鹿児島島の医学校などを経て、明治 16 (1883) 年に東京大学に入学している。その後、内務省に入り、大阪府の書記官や参事官も務めている。住友に入社したのは明治 29 (1896) 年のことであった。明治 30 (1897) 年、大正 8 (1919) 年には欧米視察をおこない、報徳会とも関係があった。

このような鈴木馬左也と大阪府立図書館の関わりは、(1) 同館の設立にさいしての寄付を住友友純に勧めたとされるほか、(2) 商議員として数々の図書館規則の制定、改定を議するなどして図書館運営に関与し、また、(3) 大正 12 (1923) 年に貴重な自然科学・医学・工学関係の洋書コレクションが大阪府立図書館に寄贈されるきっかけをつくった(今日では「住友文庫」として知られる)。最後のことについては、大正 8 (1919) 年に鈴木馬左也が 2 回目の欧米視察に赴いたさい、東京工業大学教授田丸節郎から相談を受けて、当地の学術的にも価値があった洋書を購入する手筈を整えたものであった。これが大阪府立図書館に寄贈された頃、同館は学術参考図書館の性格を強めていた時期であった。

このような鈴木馬左也の根底にあった主義・思想は、国家のために人材育成を重視する姿勢であり、大阪府立図書館への貢献もこうした考えに基づいて行われたと考えられる。

(指導教員 原 淳之)